

2. 消化器領域におけるVscanの活用

石田 秀明*¹/渡部多佳子*¹/大山 葉子*²/長沼 裕子*³

*1 秋田赤十字病院超音波センター *2 秋田組合総合病院臨床検査科 *3 市立横手病院消化器科

われわれは、これまでも本誌を中心に「Vscan」(GE社製)の有用性について、特にVscanの機動力について述べてきた。しかし、相変わらずVscanの画質や診断能力に関し否定的な意見も存在する。この意見が正当なものであるなら、それを受け入れざるを得ないが、不当なものなら原因を排除しなくてはならない。それが、今回のテーマである“活用”に直結する問題だからである。そこで、(超)否定的な意見を持たれていた施設の先生方と直接お会いしてご指摘をいただき、装置を実際に操作して問題解決を図った。その過程(別に争いの記録ではないので気楽に読んでいただきたい)を下記にまとめた。

Vscanの使用に対する指摘と解決方法

■指摘1：画像が暗くてよくわからない。

「画像が暗い」という指摘は結構多かったが、原因は①ゼリーが少なすぎる、②肋骨上にプローブを置いている、に大別された。

→活用法(というよりアドバイスかも)：

①ゼリーは(余裕を持って皮膚を覆うくらい)たっぷり付ける。②肋間走査に関しては後述する(ボーナスコーナー参照)。ゼリー量不足、ゼリー量十分の画像を図1に供覧する。

一言：小さな出し惜しみ、大きな損失。

■指摘2：臓器が小さく表示されてよくわからない。

これも多かった意見である。原因は視

野深度の調節がまったくできていない(というよりそんな機能があることも知らない)ためであった。視野深度は観察目的に合ったものが適切、合わないものが不適切である。深部観察の場合は画像を縮小、浅部観察の場合は画像を拡大させる(図2)。ちなみに、図3は(再確認のため)視野深度調節の操作手順である。とても簡単なので覚えてほしい。

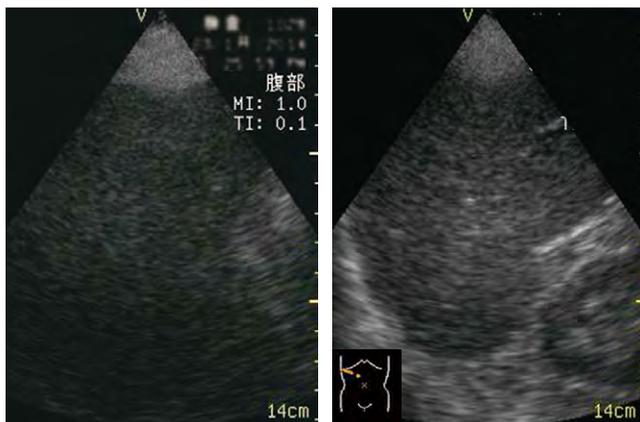
一言：大は小を兼ねず、小は大を兼ねず。

■指摘3：Vscanはセクタープローブなのでうまくガスを追い払えないが、何か良いテクニックは？

■指摘4：浅部(胆嚢底部など)がどうしてもうまく観察できない。

■指摘5：膈頭部周囲の観察がどうしてもすっきりできないが、良い方法は？

これらはかなりVscanを使い込んだ医

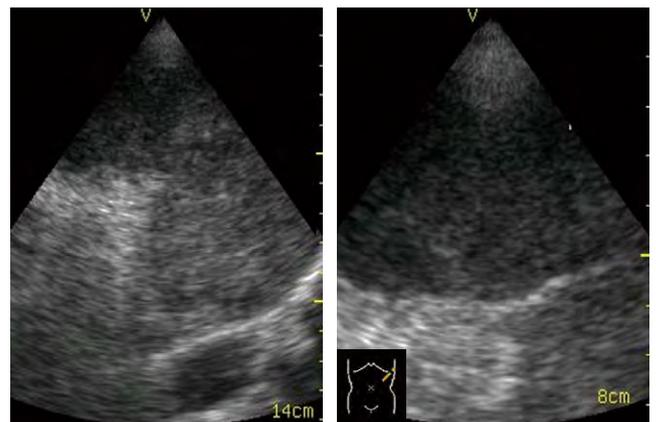


a：ゼリー量不足

b：ゼリー量十分

図1 ゼリー量と画質

一言：ゼリー量も気合も十分に！！



a：視野深度14cm(深部観察)

b：視野深度8cm(浅部観察)

図2 視野深度の調整(脾悪性リンパ腫)

全体を見るには深めの視野深度、浅部を見るには浅めの視野深度を選ぶ必要がある。

一言：視野深度を変えると認識も変わる。